

予報期間 11月19日から11月25日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 21日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線が北日本を通過する。大陸の高気圧が西日本付近へ張り出す。
- 22日は、高気圧が本州付近へ移動する。
- 23日は、高気圧が日本の東へ移動し、気圧の谷が日本海へ進む。
- 24日は、低気圧が日本海北部に発生し、前線が西日本の日本海沿岸にのびる。
- 25日は、低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、前線が北日本付近を通過して日本の東にのびる。華中付近に大陸の高気圧が移動する。

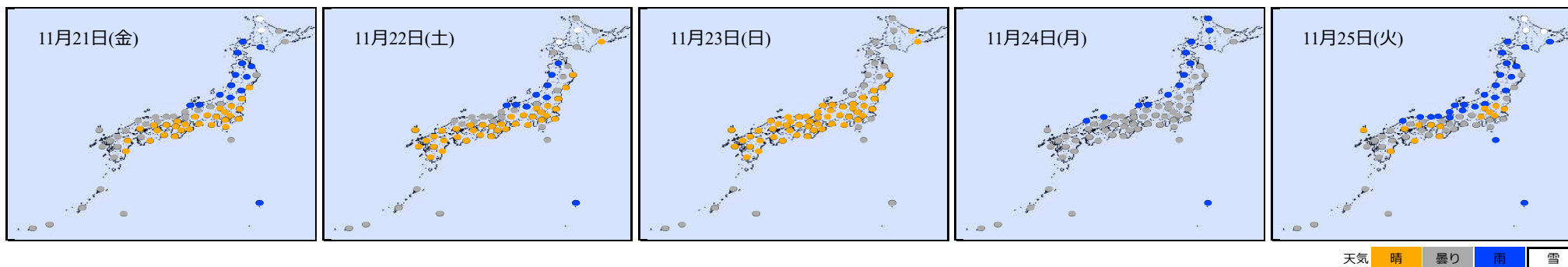
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

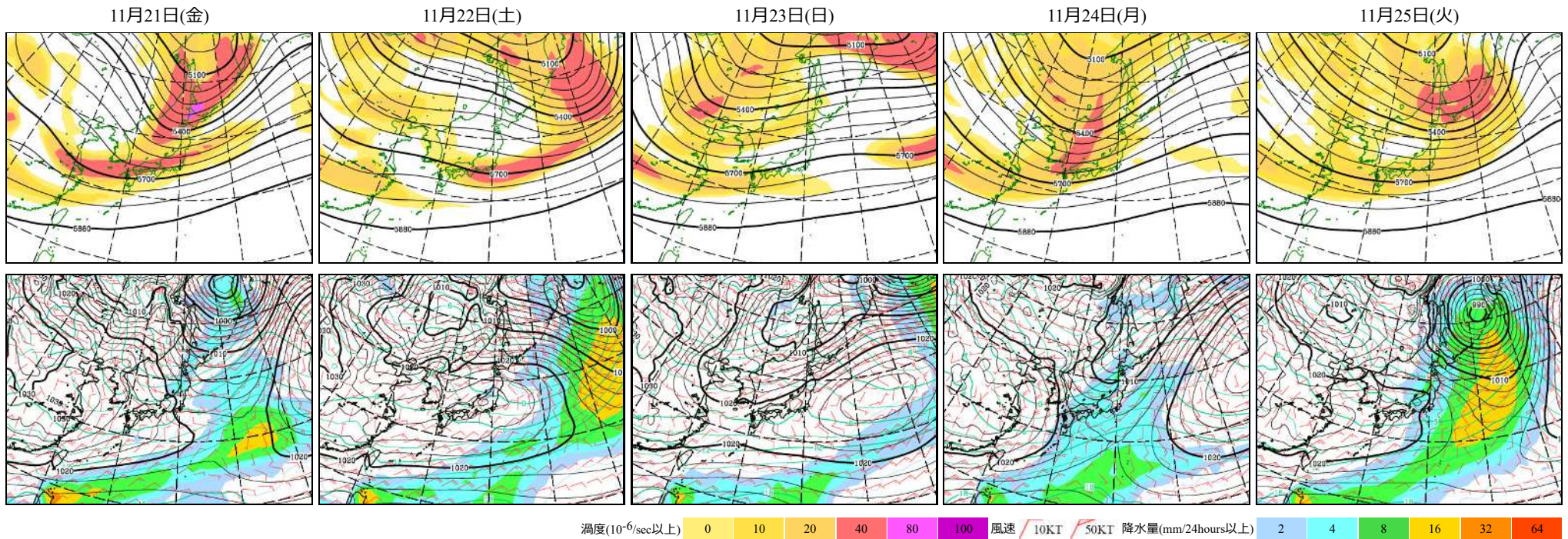
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

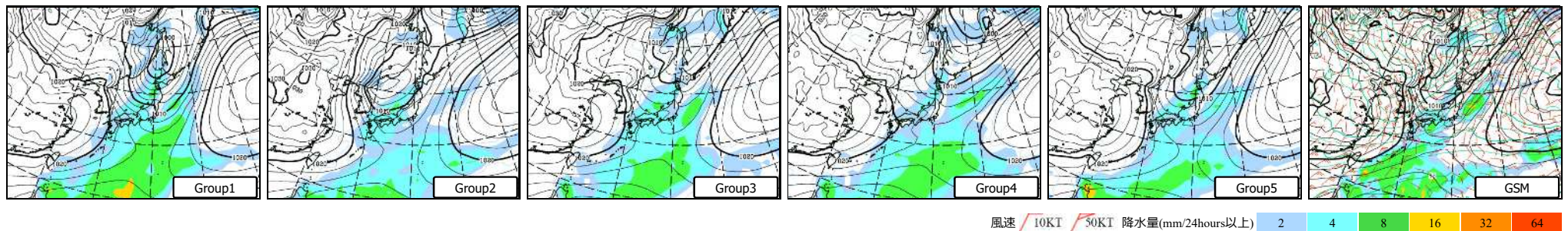


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、期間を通して雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月24日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、24日から25日にかけて日本付近を東進する500hPaで5400m付近のトラフが深くなった。このため、24日は東日本から西日本の日本海側を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- 23日まではモデル間の差は小さいが、24日から25日にかけてオホーツク海へ進む低気圧についてはバラツキが見られる。
- スプレッドは期間の終わりは大きく、5400mの特定高度線のバラツキが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。